

一般講演 午前の部 1

開始時間	第1会場		第2会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
10:00	1	<p>網走市における子実収量の異なるコムギの生育、乾物生産と葉の光合成速度 平沢 正¹⁾・中神龍一^{* 1)}・伊藤博武²⁾・大川泰一郎¹⁾・小松輝行²⁾ (¹⁾ 東京農工大学大学院農学教育部, ²⁾ 東京農業大学生物産業学部) 網走市において調査対象とした圃場の子実収量の違いは、上位葉形成期以降の生育の違いが関係し、とくに登熟期間中の葉の光合成速度と乾物生産の相違によって生じていた。</p>	16	<p>熱帯系トウモロコシの湛水条件下における地表の不定根形成能の QTL 解析とテオシントの QTL との比較 大森史恵^{* 1)}・間野吉郎¹⁾・村木正則²⁾・高溝正¹⁾ (¹⁾ 畜産草地研究所, ²⁾ 九州沖縄農業研究センター) トウモロコシ B64 x Na4 の F₂ 集団において不定根形成能の QTL 解析を行ったところ、第3、第7および第8 染色体に QTL が見出された。</p>
10:15	2	<p>土壌硝酸態窒素含有量と葉色値による小麦「農林61号」の子実粗蛋白質含有量の予測法 上野敏昭[*]・武井由美子・石井博和・相崎万裕美 (埼玉県農林総合研究センター) 小麦「農林61号」の子実粗蛋白質含有量は、7 葉期の土壌硝酸態窒素含有量と降水量の積により、または穂揃期止葉葉色値により予測が可能で、各時期で追肥の要否が判断できる。</p>	17	<p>葉身の緑色程度、窒素濃度が幼植物期のトウモロコシ系統間で異なる要因の解析 — J1321 と J1562 の比較— 平沢 正¹⁾・山田悦子^{* 1)}・重盛 勲²⁾・大川泰一郎¹⁾ (¹⁾ 東京農工大学大学院農学教育部 ²⁾ 長野県中信農業試験場) 窒素を含む水耕液で生育したときには、葉身の緑色程度と窒素濃度は、葉身への窒素分配割合が高まることによって、幼植物期でも J1321 が高くなった。</p>
10:30	3	<p>硬質小麦品種「ダブル8号」の栽培法 斎藤幸雄[*]・小柴 守 (群馬県農業技術センター) 本県育成の硬質小麦品種「ダブル8号」について、蛋白質含量向上を主眼とした高品質・安定多収栽培技術を、主に黒ボク土水田において検討した。</p>	18	<p>水分ストレス条件下におけるラッカセイの光合成関連形質の反応 磯田昭弘・曹 鉄華[*] (千葉大学園芸学部) 異なる土壌水分条件下での光合成関連形質、特に明反応に関連する形質について検討した。</p>
10:45	4	<p>日本麵用小麦「イワイノダイチ」の多収及び高品質安定栽培法 新井 申[*]・相吉澤秀夫 (栃木県農業試験場) 日本麵用小麦「イワイノダイチ」の多収及び高品質を狙い、さらに粉色の劣化、倒伏、硝子率を許容範囲内に収める施肥体系を明らかにした。また、低蛋白の防止が可能である追肥診断指標を作成した。</p>	19	<p>双子葉作物の葉毛におけるケイ素の集積 阿部 淳^{* 1)}・アレキサンダー ルックス²⁾・服部太一朗³⁾・安 萍³⁾・森田茂紀¹⁾・稲永忍^{3),4)} (¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科, ²⁾ コメニウス大学理学部, ³⁾ 鳥取大学乾燥地研究センター, ⁴⁾ 国際農林水産業研究センター) ヒマワリ、ダイズ、トマト、ナス、ダイコン、サツマイモの葉身表面を X 線微量分析装置で解析したところ、ヒマワリとダイズで毛にケイ素の蓄積がみられた。</p>

開始時間	第1会場		第2会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
11:00	5	<p>関東地方の畑地に適するパン用小麦品種・系統の選定 渡邊好昭^{*1)}・金子成延¹⁾・小前幸三¹⁾・高橋茂²⁾・吉田茂男³⁾・青木義篤³⁾・齋藤徳生³⁾ (¹⁾ 作物研究所, (²⁾ 中央農業総合研究センター, (³⁾ (株)曾我製粉) 関東地方で栽培可能な硬質小麦10品種、系統について、窒素追肥条件を変えて、生育、収量、子実蛋白質含量に及ぼす影響を検討した。</p>	20	<p>水稻葉のガス交換、Rubisco およびクロロフィル含量に及ぼすオゾンおよび二酸化炭素の濃度の影響 石王俊成[*]・今井 勝 (明治大学農学部) オゾンはRubisco 含量の低下および光合成色素の分解を通じて光合成系に損傷を与える。</p>
11:15	6	<p>東京北多摩における条間・追肥と播種日・品種の組み合わせのコムギ収量・製粉窒素濃度・製パン性への影響 鴨下顕彦 (東京大学大学院農学生命科学研究科附属農場) 東京北多摩で、北海道産品種などパン用栽培が可能なコムギ品種を示し、密植と窒素追肥によるバンドウワセの増収と若干 0.2%程度の小麦粉窒素濃度の増加を示した。</p>	21	<p>播種時期の移動が高温・高CO₂条件下の水稻のガス交換特性に及ぼす影響 岩本 見[*]・今井 勝 (明治大学農学部) 温暖化条件下ではイネのガス交換特性に関しては、播種時期が遅くならない方が良好な結果をもたらすと考えられた。</p>
11:30	7	<p>コムギ茎における根原基形成と辺周部維管束環の大きさの推移 鈴木祐太[*]・新田洋司・松田智明 (茨城大学農学部) コムギにおける根原基の形成と辺周部維管束環の大きさの推移を検討した。辺周部維管束環が根原基を分化する能力は葉齢5.2頃に高かった。</p>	22	<p>ワイルドライスの生育および収量性 穴澤拓未[*]・吉田智彦 (宇都宮大学農学部) ワイルドライスの日本における栽培の可能性を探るため、生育と収量性を調査した。移植後10週で成熟し、収量は早植え区で184kg/10aであった。</p>
11:45	8	<p>水稻極晩生突然変異系統の遺伝解析 佐藤 大^{*1)}・上田卓司²⁾・加藤盛夫²⁾・丸山幸夫²⁾・横尾政雄²⁾ (¹⁾ 筑波大学生物資源学類, (²⁾ 筑波大学大学院生命環境科学研究科) 出穂期に関する突然変異系統の中から極晩生系統を選抜し、遺伝解析をした結果から感光性を調節する <i>Se1</i> 座に極晩生遺伝子が存在することを推定した。</p>	23	<p>国内におけるキノア栽培技術に関する研究第1報 キノアの出芽に与える播種深度と土壌水分の影響 石井利幸[*]・上野直也 (山梨県総合農業試験場) キノアの出芽最適播種深度は0.5cm程度、最適土壌水分率は黒ボク土が30%(水/乾土重g)、灰色低地土が10~25%(水/乾土重g)程度であると考えられた。</p>

一般講演 午後の部 1

開始時間	第1会場		第2会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
15:00	9	<p>玄米の無機元素含有量の品種間変異と産地の違いによる変動 進藤久美子*・塚越芳樹・内藤成弘・安井明美 (食品総合研究所)</p> <p>同一圃場で栽培された米に含まれる無機元素量の品種間変異を、産地間の変動と比較した。微量な元素ほど品種間により産地間の変動が大きかった。</p>	24	<p>Effects of seed weight on germination and seedling growth of Touki seed (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) Hiroshi Nojima, Ninh Thi Phip* and Toru Tashiro (Faculty of Horticulture, Chiba University)</p> <p>トウキ種子の発芽のための吸水量は播種後24時間までに決定され、吸水量は種子重の影響を受ける。種子重の軽い種子は重い種子より発芽率が低くなり、生育も遅かった。</p>
15:15	10	<p>コシヒカリの広株間栽培における苗箱節減の効果 遠井綾*・倉井耕一 (栃木県農業大学校)</p> <p>株間 30 cm で収量を安定させるには茎数を確保する必要がある。茎数確保の為に8本植程度の大苗に植える必要があるため大幅な苗箱の節減は期待できない。</p>	25	<p>Evaluation of spikelet fertility of rice plants obtained from mature seed-derived callus culture Nono Carsono¹⁾ and Tomohiko Yoshida²⁾ (¹⁾Tokyo University of Agriculture and Technology, ²⁾Utsunomiya University)</p> <p>Spikelet fertility of plant regenerated from callus was not significantly different with those derived from the seed, except on Ciapus and BP-140. Spikelet fertility of plant regenerated from callus ranged from 44.76% (Fatmawati) to 92.22% (Nipponbare).</p>
15:30	11	<p>千葉県夷隅町における地下水位制御システム「FOEAS」(フォアス)水田を用いた水稲不耕起直播栽培事例 西山一雄 (夷隅農林振興センター)</p> <p>地下水位制御システム「FOEAS」(フォアス)水田を用いて水稲不耕起直播栽培を行った結果、10a当たりの収量450kgが得られ、乾田直播栽培が導入しにくい夷隅郡の直播栽培の実用化に展望が得られた。</p>	26	<p>食用カンナの茎頂培養に及ぼす成長調節物質の影響 酒井隆成*・今井勝 (明治大学農学部)</p> <p>BAとNAAが含まれるMS培地上で茎頂から発育した幼植物をTIBA(抗オーキシシン)が含まれる培地に移植すると、通常は発育しない側芽が複数発育した。</p>
15:45	12	<p>プール育苗及び晩植における水稲育苗箱全量基肥栽培の検討(第6報) 高橋行継^{*1), 2)}・吉田智彦³⁾ (¹⁾群馬県西部農業事務所, ²⁾東京農工大学大学院連合農学研究科, ³⁾宇都宮大学農学部)</p> <p>水稲育苗箱全量基肥法によりりん覆土を検討した。球状ようりんは生育障害が大きく、育苗は難しい。砂状ようりんは出芽時の生育障害が目立ち、技術的には可能なものの、普及技術としては問題があると判断した。</p>	27	<p>ジャガイモ塊茎におけるアミロプラストの増殖様式に関する走査電子顕微鏡観察 山本公威*・松田智明・新田洋司 (茨城大学農学部)</p> <p>ジャガイモ塊茎のアミロプラストの増殖様式および色素蓄積とアミロプラスト増殖の関係について検討した。</p>

一般講演 午後の部 2

開始時間	第1会場		第2会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
16:00	1 3	<p>Effects of temperature, sowing depth and soil hardness on cambodian rice establishment in flooded paddy field condition Ly Tong*¹⁾, Haruki Kimijima²⁾ and Tomohiko Yoshida¹⁾ ⁽¹⁾ Tokyo University of Agriculture and Technology, ²⁾Utsunomiya University)</p> <p>Seedling establishment of Cambodian rice showed low value in deep sowing and low temperature compared to Koshihikari. By the drainage 4 day before sowing, germination and establishment rate were lower than 2, 1 or 0 day's drainage treatments.</p>	2 8	<p>二条オオムギ子実の胚乳におけるアミロプラスタの増殖と蓄積 森田正文*・松田智明・新田洋司 (茨城大学農学部)</p> <p>二条オオムギ子実の蓄積構造、とくにアミロプラスタの増殖の様相に着目して走査電子顕微鏡観察した。</p>
16:15	1 4	<p>堆肥施用と窒素施肥法が飼料イネ品種「ホシアオバ」の湛水直播栽培における生育に及ぼす影響 石川哲也*¹⁾・草佳那子¹⁾・三枝貴代¹⁾・石田元彦¹⁾・阿部 薫²⁾ ⁽¹⁾ 中央農業総合研究センター, ²⁾ 農業環境技術研究所)</p> <p>2kg m²の牛糞おがくず堆肥を3年連用して湛水直播栽培した飼料イネ品種「ホシアオバ」は、6.3g m²の窒素施肥量で、1674g m²の黄熟期地際刈り乾物重が得られた。</p>	2 9	<p>高濃度のNaClを含むバーミキュライトに生育するオオムギの成長、光合成速度、子実重の品種間差 佐藤好亮*¹⁾・大川泰一郎¹⁾・武田和義²⁾・平沢 正¹⁾ ⁽¹⁾ 東京農工大学大学院農学教育部, ²⁾ 岡山大学資源生物科学研究所)</p> <p>200mM NaClを含むバーミキュライトに生育したオオムギの個体成長速度と子実重には品種間差があった。この品種間差にはそれぞれ光合成速度と稔実歩合の減少程度の違いが関与していた。</p>
16:30	1 5	<p>耐倒伏性極強の飼料用水稻長稈新品種関東飼215号の育成とその特性 大川泰一郎¹⁾*・加藤 浩²⁾・坂井 真³⁾・石原 邦¹⁾・平沢 正¹⁾ ⁽¹⁾ 東京農工大学大学院農学教育部, ²⁾ 作物研究所, ³⁾ 九州沖縄農業研究センター)</p> <p>耐倒伏性極強の水稻長稈品種関東飼215号は、断面係数と曲げ応力がともに高いことにより極めて折れにくく、基部から上部の節間まで極めて曲がりにくい稈の特性をもつ。</p>	3 0	<p>水耕液のNaCl濃度の増加がマングローブ植物ヤエヤマヒルギの各器官のNa⁺、Cl⁻濃度に及ぼす影響 平沢 正・高橋伯実*・丸野祐介・大川泰一郎 (東京農工大学大学院農学教育部)</p> <p>培地のNaCl濃度が高くても、Na⁺とCl⁻の植物体内への移動は根で大きく抑制されるが、この抑制は根の代謝活性に基づくものではない可能性が示唆された。</p>